

両沼地方稲作情報 第5号 【水管理・いもち病対策・穂肥】 令和8年6月4日

発行：福島県会津農林事務所会津坂下農業普及所（電話0242-83-2113）
〃 金山普及所（電話0241-54-2801）

J A会津よつば 各営農経済センター、(有)カネダイ、(有)猪俣徳一商店、(有)山一米穀店、
会津宮川土地改良区、阿賀川土地改良区、会津坂下町只見川土地改良区、袋原土地改良区



← 会津坂下農業普及所のHPでは、これまで発行した稲作情報を掲載しております。
その他、様々な情報を発信しておりますので、お気軽にご覧ください。

- 適切な水管理で節水管理に努め、用水を有効利用しましょう。
- 土壌還元（ガス湧き）による生育障害に注意しましょう。

1 気象情報

- ・**経過** 4～5月は降雨が少ない傾向で推移しましたが、5月中旬から下旬にかけての降雨により、月間降水量は平年を上回りました。気温は一時的な低温を除き、全体として平年より高めで推移しました（図1）。
- ・**東北地方1か月予報（5/30～6/29）**
向こう1か月は気温が高く、特に期間の初めはかなり高い見込みです。また、前半は晴れが多く、後半は曇りや雨が多い見込みです。

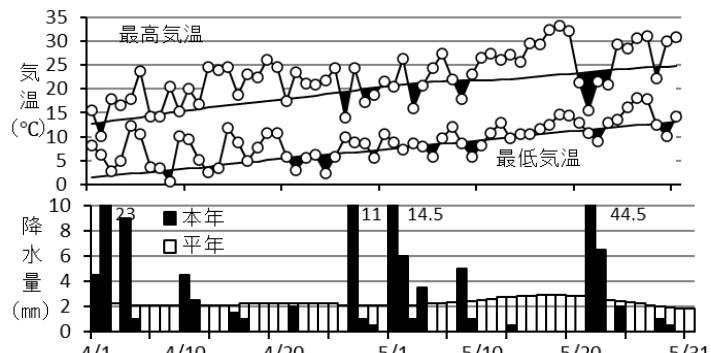


図1 気象の経過(アメダス若松)

2 作業状況・生育状況

- ・**作業進捗** 田植え作業および直播栽培の播種は概ね平年並みに進みました。
- ・**初期生育** 生育（葉齢）はやや遅れたものの、コシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶでは、草丈が長く、茎数も多い傾向がみられました（表1）。

表1 水稲作柄解析試験(会津地域研究所、6月2日調査)

品種名	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/m ²)	葉齢 (葉)
コシヒカリ	本年	28.4	168	4.6
	平年	24.5	115	5.1
	平年比	116%	146%	-0.5
ひとめぼれ	本年	28.5	139	5.0
	平年	22.3	117	5.2
	平年比	128%	119%	-0.2
天のつぶ	本年	27.6	133	4.7
	平年	24.0	122	5.2
	平年比	115%	109%	-0.5

注. 5月20日移植、20.8株/m²(30cm×16cm)植え

3 水管理(分けつ期～幼穂形成期)

(1) 分けつ期

- ・浅水管理(水深3cm程度)で分けつを促し必要茎数を確保しましょう。入水は夕方から朝方に行い、日中は止水して水温の上昇を図りましょう。
- ・表層剥離や藻の発生が多い場合は、生育が抑えられるため、水の入れ替えを行いましょう。

(2) 中干し(有効分けつ期～幼穂形成期前)

- ・必要茎数(目安 コシヒカリ20本/株、ひとめぼれ25本/株、天のつぶ20～22本/株)を確保したら中干しを行い、無効分けつを抑えましょう。
- ・中干しは、田面に1cm程度の亀裂が入る程度(足跡がつく程度)とし、幼穂形成期前(出穂期25～21日前)までには終了しましょう。
- ・中干し期間に、溝切りを細かく(約2.5m間隔)行い、溝の末端を排水口につなげることで、停滞水の排水がしやすくなります。また、中干し後の水管理において、灌水時に水が行き渡りやすくなるため、少ない水でも田面の湿潤状態を保つことができるようになります。
⇒本年も渇水が予想されるため、節水管理を積極的に実施しましょう。
- ・中干し後は、はじめに走り水を行い、間断かんがいや飽水管理(ひたひた水状態)に移行しましょう。

(3) 幼穂形成期

- ・ 間断かんがいや**飽水管理（ひたひた水状態）**により根圏環境の改善に努めましょう。
- ・ 低温（平均気温20℃以下、または最低気温17℃以下）が想定される場合は、深水管理（水深10cm程度、幼穂が水に隠れるように）にして、幼穂を低温から保護しましょう。

○**飽水管理**（平成27年度 新潟県農林水産業研究成果集より抜粋）
高温登熟下で湛水管理及び乾燥気味の水管理をすると、根及び葉の発達や生理活性を抑制して玄米の品質が低下するため、飽水管理（田面に水はないが、足跡の底に水がたまっている箇所が散見される状態）により品質低下を抑えましょう。また、**渇水時の節水管理**にもつながるため、**積極的に実施**しましょう。



図2 飽水管理における足跡に水が溜まる様子

- ・ 実際の管理
畔際まで水がひたひたの状態にしてから、自然減水、再び灌水を繰り返します。足跡に水が無い場合は乾燥しすぎなので、直ちに灌水を開始しましょう。

今からできる倒伏対策

◆ 土壌還元（ガス湧き）を解消し根傷み防止

土壌還元(ガス湧き)は根傷みを引き起こし、長引くと節間の充実不足や根張り不良となり、登熟期の倒伏要因のひとつになります。生育に影響がある場合は、一時的に落水してガスを抜き、根圏環境を改善しましょう。

◆ 中干しによる過剰生育の抑制、根の健全化

中干しは過剰生育を抑制するとともに、土壌への酸素供給により根が健全化され、倒伏が軽減されます。また、秋のコンバイン収穫作業に備えて地耐力も向上します。

降雨により中干し効果が十分に得られない場合があります。目標茎数が確保されたら早めに中干しを開始しましょう。

4 いもち病対策

- ・ 会津地方における葉いもちの初発は6月下旬頃です。夏季の低温、多雨、日照不足で発生しやすくなります。置き苗は伝染源になりますので早急に処分しましょう。
- ・ 窒素過多で過繁茂のほ場では、多発する可能性があります。ほ場内に葉いもちの発生を確認した場合、速やかに散布剤（液剤・粉剤）で防除してください。
- ・ 田植え時に箱処理剤（直播栽培では種子に塗抹処理）を使用していない場合は、水面施用剤（粒剤）等で防除してください。

5 穂肥

- ・ 出穂25日前の生育を確認して、草丈が長く葉色が濃いほ場は、穂肥の量を減らすか、施肥時期を少し遅らせましょう。
- ・ ひとめぼれ、天のつぶは、出穂25日前にチッソ成分2kg/10aを基本とします。
- ・ コシヒカリは倒伏しやすいため、施肥時期を遅くし、出穂15日前にチッソ成分1.5～2kg/10aを基本とします。
- ・ 基肥一発肥料を使用している場合、極端に葉色が低下しているほ場を除き、穂肥は必要ありません。

○初・中期一発処理剤で残草した場合、中期剤で対処しましょう。

○草刈作業が本格化する時期です。安全対策の徹底とともに、こまめな水補給で、農作業事故、熱中症を防ぎましょう。

葉いもちの感染好適日の判定システム(BLASTAM)



QRコード、または、“福島県プラスタム”で検索